

開栓日誌の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	開栓日誌の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	開栓日誌を読んだことのある10代～50代の男女54名
調査期間	2025年5月20日～2025年6月10日 2025年6月13日 2025年6月30日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	ランサーズ
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/kaisennisshi/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 開栓日誌を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

10代男性	0人
10代女性	0人
20代男性	1人
20代女性	0人
30代男性	22人
30代女性	6人
40代男性	0人
40代女性	25人
50代男性	0人
50代女性	0人

Q2: 開栓日誌の感想を教えてください。

『開栓日誌』1巻	詰まりであればなんでも解消。詰まっていたものがスムーズに流れるようになったらスカッと快感ですがそれを専門にしている職業の持ち主とは。これまでにない設定が面白いです。詰まりは女性の詰まりでも解消って、水道管とかとはまた別物でしょう。結局ただマッサージをしているだけで終わってしまい、どうやって解消するのか気になるところです。
『開栓日誌』1巻	冬馬は表向きではいろんな詰まりを直す仕事をしているのですが、実は裏の顔もあるという意外性が良かったです。冬馬が訪問した家の奥さんと良い感じになるのですが、その奥さんの旦那さんは冬馬の先輩だったりと、複雑な人間関係が展開していくところも注目ポイントです。二人ともそんな背徳感を楽しんでいるようで、こちらもドキドキしてしまいました。
『開栓日誌』2巻	冬馬がいつも通り洗面台の詰まりを直す仕事を終えたあと、その家の奥さんと良い感じの雰囲気になっていくので見てドキドキしました。人妻なので冬馬が手を出してはいけないからこそ、緊張感がどんどん高まっていくのも良かったです。冬馬も奥さんにアプローチを仕掛けるのが上手く、優しく慰めながら距離を縮めていく辺り策士だなあと思いました。
『開栓日誌』2巻	腰の痛みを改善する冬馬のマッサージ、ぜひ自分も受けてみたいものです。彼の手はまさしくゴッドハンドですね。自分でどうにかしようとしてもうまくいかず結局呼び出す奥さん。どこでこんな技能を身に着けたのか冬馬の過去が知りたくなりますが、開栓というのは専門家ならではのお仕事ってわけです。それにしても、冬馬と子供というのもおもしろい。
『開栓日誌』3巻	冬馬と拓哉の奥さんが、ついに禁断の関係へと進んでしまったので読んでドキドキしました。拓哉には何とか気付かれませんでした。いつかバレてしまいそうな緊張感が漂っていました。冬馬はどんな詰まりを取ることもできる能力を持っていますが、まさかそれが人間相手にもできるとは思わなかったので結構ビックリしました。この冬馬の能力がこれからもどんどん使われていきそうで、楽しみにになりました。
『開栓日誌』3巻	触っただけで膀胱炎が分かるって、しかもあつという間に開栓して。やり方はとにかく冬馬が名医であることは確かですね。女性限定なののでしょうか。膀胱炎に悩む男性も多いでしょうし、そういうのを直してあげれば医者として儲けられるのでは。それにしても、のんきにしている拓也がかわいそう。彼がシャワーを浴びてる隙にとかめちゃくちゃスリリングです。
『開栓日誌』4巻	個人的に最初のシーンが最高です。旦那さんがいつ来るかわからない状態でそういうことをするって、すごくドキドキしちゃいますよね。個人的には冬馬みたいな男性にされたいなあと奥さんに自分を重ねてしまいました。翠とのことも、いろいろ進んでいったお話だと思います。翠はすごく好きなキャラで、ちょっとぶっくらぼうなところが魅力的でした。
『開栓日誌』4巻	拓也が鈍感すぎて涙が出る。そして冬馬の次のターゲットは翠。せっかくのアプローチが気持ち悪いって、翠よく言った。ちょっと笑えてしまいました。確かに冬馬は気持ちが悪い。特に彼の妄想シーンにはドン引きです。椅子を匂ったりって、ただただ職人技で開栓をしてるだけかと思ったら妙に男っぽい変態だった。彼の見方がまた変わりました。
『開栓日誌』5巻	拓哉の奥さんにも、翠にも積極的にアプローチする冬馬が印象に残る回でした。冬馬は自分の欲を満たすためなら、もはや相手が誰でもいいような感じがします。その一方で、結構狡猾な方法で相手の懐に入り込んだり、冬馬の頭が冴えてる一面も描かれているのが良かったです。翠はかなり冬馬を警戒しているようなので、どうやって攻略していくのか楽しみです。
『開栓日誌』5巻	無理やり詰まりを何とかしようとする冬馬、どうなんでしょう。更にはその強烈さに充てられてなんとかしようとする近所のおばさんで発散って。そんな相手として選ばれる近所のおばさんがかわいそうなんですけど。それだけ翠一筋ならまだしも、拓也の奥さんに対してもアプローチをかけていて。そのためには策を選ばない男ですね。

『開栓日誌』6巻	冬馬と拓也の奥さんは結構危険な領域まで進んでしまっていて、拓也に見つかったら一貫の終わりという緊張感があります。普通だったら止めるはずの状況でも冬馬はどんどん先に進んでいくので、もはや笑ってしまいそうになりました。でも冬馬がぶっ飛んでいるからこそ、こちらの予想できないような展開を見せてくれて、この作品がさらに面白くなっているんだと思います。
『開栓日誌』6巻	旦那が眠っているのに、その横でって。究極のどきどきです。拓也よ寝ぼけてる場合じゃあないでしょう。結局気が付かないままにまた眠ってしまった拓也が哀れというか悲しすぎる。そして続く開栓作業。拓也の奥さんに有無を言わずずっとずっと続いていく冬馬による詰まりの解消作業。その淡々とした職人技が見どころと言えますね。
『開栓日誌』7巻	朝5時までって、その体力がすごい。しかもずっと隣には夫が眠っていた。雰囲気は違ってるでしょう。なんで気が付かないの。ここまできると、気づかない拓也がかわいそうっていうよりもしっかりしろよとどやしつけたくくなります。そして翠。電気がずっと点滅を繰り返すって、嫌すぎる。ついに翠の側からとなりますが、これからどうなるのでしょうか。
『開栓日誌』7巻	この回では、冬馬と翠の距離が縮まりそうなシーンが多くてワクワクしました。今のところ冬馬が一番攻略できていないキャラクターが翠なので、どんな方法で攻略していくのか楽しみです。拓也の奥さんと冬馬の関係性は相変わらずで、どんどん大胆になっているので、そのうち旦那さんにバレるんじゃないかとヒヤヒヤしながら読んでいました。
『開栓日誌』8巻	2万円分しゃぶらせられて、そりゃ冬馬のこと嫌いになって当然ですよ。でも家のチカチカが治らない以上はもう一度呼ぶしかない。でも今度はさっさとやるべき仕事を終わらせて去っていかうとしている。となるとそれはそれでまた気になるんですね。お礼にビールをふるまうなんて、やっぱり男女の関係は推してダメなら引いてみるという作戦勝ちですね。
『開栓日誌』8巻	プライドの高い翠が陥落する感じが最高でした！実際にはそういう行為をしているわけではなく夢オチではあるのですが、読者側からするとドキドキ度はそう変わらないのでOKです。個人的にこの手の漫画の中でも翠のキャラがすごく好きなので、特に好きなお話になりました。
『開栓日誌』9巻	冬馬にかなり当たりの強い様子を見せた翠ですが、あとになって冬馬のことがどんどん気になってしまうのが注目ポイントです。やはり冬馬はどんな女性でも虜にする魅力があるようです。翠はいかにも気が強そうな女性なので、冬馬のことを好きになっても、プライドが邪魔をして告白とかはできないんじゃないかと思っています。そんな二人の関係性にこれからの期待が高まります。
『開栓日誌』9巻	詰まり解消に失敗。これまででない展開です。やはり無理やりだといけないのか。とはいえ、体のおもだるさは消えているのですから途中まではいい感じになってたということか。でも開栓まで至っていない体は完全とは言えずほてりを感じる翠。そしてしょうがなく自分でって、いったいどこでやってるんですか。とにかく色っぽくてドキドキ。
『開栓日誌』10巻	翠は冬馬に好意を持っているけれど、冬馬はいろんな女性と遊んでいるという切ない関係性が印象に残りました。さらに今回は、冬馬の子どもみたいなイタズラシーンがあったりして思わず笑ってしまいました。今のところ冬馬がメインで狙っているのは拓也の奥さんのようですが、近所の人たちに噂されたりもしているので、バレるんじゃないかとヒヤヒヤしながら楽しみました。
『開栓日誌』10巻	詰まりが解消された拓哉の奥さんの変化がすごい。こんなの見せられると、自分も冬馬に開栓してもらいたいかなんて思えてしまいます。それにしても、ご近所から声の大きさを指摘されるってどれだけの声なのか。聞かされる側としては確かに嫌ですよ。一方で拓哉はというと、何をしてるんですか。自分のを残すって最低すぎる
『開栓日誌』11巻	まだ冬馬の本当のところを知らないでいる小紅。冬馬がいい男って、開栓なんて言いながらとにかく見境なしですから女性ならばとにかく関わり合いにならない方がよいでしょう。ただ、誰でもいいって感じでもなく冬馬は翠のこと、結構気にかけているみたいですね。夏季休暇でいなくなった翠に寂しそうな表情を見せる冬馬。一方で東京を満喫している翠。二人の対比が面白い。

『開栓日誌』11巻	冬馬と翠の関係性に小紅が感づいていて、どんどん二人の真相に迫っていくところにドキドキしました。翠は否定していましたが、表情からもだいた焦っているのが伝わってきました。その一方で冬馬は別のトラブルに遭遇したり、ハチャメチャなエピソードが多くてその分見どころもたくさんありました。それぞれの抱えている問題がこれから大きくなっていきそうなので、不安と同時にワクワク感も感じられます。
『開栓日誌』12巻	自分の勝手な価値観で評価を1にしたり、そういった客もいるのですから世の中を渡っていくのは大変です。ちゃんとしたまともな友達もいるのになんでそんなことに、やっぱりこれも詰まりが原因なんでしょうね。それにしても、トイレに汚物を残してって、女性がやる仕返しとしては下の下でしょう。やばすぎる。脚をなめだす冬馬もヤバイけど。
『開栓日誌』12巻	今まで秘密にしていたはずの冬馬と拓真の奥さんの関係性が、ついに周りにバレ始めたのではないかという衝撃の展開が見どころとなっています。確かに二人は調子に乗ってどんどん先に進んでいたんで、バレしてしまうのも無理はないなと思いました。拓真も怪しんでいる様子なので、冬馬たちに対してどんな行動を起こすのか目が離せなくなりました。
『開栓日誌』13巻	子供が横にいるのに、そんな中でって。背徳感半端ないですが、むしろそれが恋のどきどきに代わってしまい燃え上がってしまうのですから困ったものです。それにしても、やっと奥さんの名前もわかりましたね。変わらずやってくる冬馬。そして結局は彼のことを拒み切れないでいる奥さんの美智子さん。このままどうになってしまうのか続きが気になります。
『開栓日誌』13巻	冬馬のやりたい放題っぷりが今回も遺憾なく発揮されていたのですが、ついに女性に怒られるシーンもありつつ、こりてない冬馬が面白いです。拓哉の奥さんとの関係もまだ終わらせる気がなさそうですし、冬馬の欲は尽きることはないのでしょうか。しかし、後半では何やら不穏な空気が漂い始め、冬馬と拓哉の奥さんの関係性がバレそうな感じがしてドキドキしました。
『開栓日誌』14巻	母乳が出なくて困っているママたち、いっぱい世の中にはいるでしょう。冬馬に開栓してほしいような気もするけれど、若い男性にとってこれって絶対に夫は良しとしないでしょうね。浮気の一步手前というかグレーゾーンです。そんな冬馬が気になっている翠。はじめはけんもほろろな対応でしたがちょっとずつ変わっていつてますよね。雪解けも近いのか。
『開栓日誌』14巻	もはや当たり前のようにになっている拓也の奥さんとの行為。最初はちょっと罪悪感を覚えることもあったのですが、この頃になるとなんだか慣れっこになりました。というより、奥さんが明らかにスッキリしているのが見えて笑ってしまいます。いろいろな詰まりが取れたのか、母乳の出が良くなっているところがタイトル回収という感じがしますね。
『開栓日誌』15巻	自分から冬馬をご飯に誘ってくる翠。会社でも何かと彼のことを気にしているし。ついに落としたなといった感じで、感慨深いものがありますね。ちょうどそんなときに出張に行ってしまう。突然、冬馬が手が届かないところになって、その演出ナイスです。ただ、クレームをつけた女性と翠が同級生ってのが判明して、そこからどんな風になるのかは気になるところです。
『開栓日誌』15巻	冬馬と翠の過去が明らかになる、個人的にはかなり重要な回です。今までも翠の反応や態度を見て、もしかしたら...？と思ったことはあったのですが、やはり二人には過去に接点がありました。それも、なかなか近い接点です。確かに過去に接点があったとしても、年月が経てばお互い見た目も変わるしわからないのも仕方ないと思います。二人の過去が明らかになったことで、ますます今後の二人がどうなっていくのか楽しみになる巻でした！
『開栓日誌』16巻	勝手に人の電話に、しかも異性からの電話に出ちゃうなんてさすがにこの冬馬の行為にはドン引きです。そんな彼、労働組合に呼び出しを食らって。これからどうなるのか気になる場所ですね。それにしても、翠の体の違和感とはどういうことなのでしょう。調べるために近所のおばさんを使うって、おばさんもかわいそうなんですけど。
『開栓日誌』16巻	冬馬が労働組合から呼び出されるなど、結構シリアスな展開が目立ったエピソードでした。そして冬馬は翠に対する不思議な違和感も抱えていたりして、この違和感の正体が何なのかも気になります。翠は冬馬のことを気にかけているようですが、同時に怪しんでいるのも伝わってきます。そんな二人の関係性が、これからどう変化していくのか期待しています。

『開栓日誌』17巻	男女の関係ってなかなかうまくいかないものなんですよ。若い男性に足のマッサージを頼むなんて翠さんとっても積極的。しかもこんな美脚をさらしてくれるのですから、男性なら誰もそのまま先へ先へと進めていきそうなものです。なのにまさか途中でやめて帰っちゃうとは。冬馬どうしたの。これまでと違う冬馬の様子も見どころです。
『開栓日誌』17巻	翠が冬馬に好意を寄せていくと、逆に冬馬はそっけなくなるという切ない関係性が印象に残りました。冬馬は追いかけるより、自分から追いかけていきたいタイプなんだと思います。そして今回も冬馬のマッサージ能力の高さが遺憾なく発揮されていて、翠がとても気持ち良さそうにしてるのが伝わってきました。冬馬のこの能力は、まさに天賦の才だと思います。
『開栓日誌』18巻	冬馬がずっと書き続けていた開栓日記が、タイトルにもなっているこちらが見つかった。そしてほかの人に見られてしまった。象徴的な巻ですね。いろんな女性とかかわりそれを日記に記してって、なかなか悪趣味です。そしてこちらの巻ではいろんな女性が実際に出てくる。翠に美智子、女性の友達とこれからどうなっていくのかこちらも楽しみです。
『開栓日誌』18巻	タイトルにもある「開栓日誌」が登場し、伏線が回収されたような気持ちよさが味わえました。冬馬の開栓日誌を見た翠が、これからどんな行動を起こすのか注目していきたいです。その一方で拓也と奥さんの関係性の変化も描かれており、この二人の間に冬馬がどう関わってくるのかワクワクします。これまでのエピソードに比べて、今回はわりと平和で落ち着いて読んでいられました。
『開栓日誌』19巻	前半はクレームを入れてきた莉奈のところへ冬馬が行き、何かイベントが起きるかと思いきや何事もなく終わったのが意外でした。そこで冬馬は拓也の奥さんを呼び出すあたり、自分の都合よく利用しているのがよくわかります。しかし拓也の奥さんもまた子どものお世話のために帰ってしまったり、冬馬の計画がどんどんダメになっていく様子が面白いです。普段やりたい放題してるからこそ、そのツケが回ってきてるように見えました。
『開栓日誌』19巻	のどの詰まりをどうにかしようとしたらちょうど莉奈が戻ってきたり、美智子の場合も子供が泣いているからと途中辞め。なんだかんだでうまくいった冬馬ですがこちらの巻ではなかなかうまくいかない。一緒にややもやしちゃいました。そんな体のままに翠と備品庫に二人っきりで、学校の体育倉庫で二人っきりのオフィスバージョンですね。
『開栓日誌』20巻	詰まりを取るというのがこの漫画のメインテーマなわけなのですが、では主人公の冬馬はどうなのでしょう。冬馬は決して万能タイプな主人公ではありません。スタートは結構スーパーマンみたいな雰囲気もありましたが、精神的にもぶれちゃったりする普通の男性としての側面もあります。そういった冬馬自身の詰まりにフォーカスが当たるのは、個人的には面白い展開だなあと感じました。
『開栓日誌』20巻	ずっと詰まりを解消するために動いていた冬馬でしたが、まさか自分が詰まるとは。詰まりを直す日々を送っていても医者の不養生という言葉もありますがそうなることってあるんですね。詰まり解消のプロがまさか自分で自分のをとはいかないでしょう。ブラックジャックではないのだから。となると解消するのはやはり翠の仕事となるのでしょうか。
『開栓日誌』21巻	10年付き合ってきてようやく結婚。普通だとうらやましい限りですが、どうやら小紅にとってその結婚は望まぬものみたいです。ですが父親が厳しいから仕方なく。クッションのにおいをかぐことで気が付く冬馬がすごいというか変態チックというか。小紅メインでいくものの、東京の不動産会社に騙されて路頭に迷う翠の方も気になります。
『開栓日誌』21巻	一番の感想としては、結婚するんだー！というのが驚きでした。でも、このまま幸せになってほしいです。個人的にはやっぱり翠さんがこの場にくれたらなあと思うのですが、こればかりは仕方ないですね。しかし、結婚するのにあまり幸せそうには見えない小紅さん。そこで主人公が活躍する場面がやってきました。小紅さんが結婚する相手は長年付き合っている相手で、冷めきっている相手と結婚することになるわけ。そんな小紅さんの詰まりにフォーカスが当たる巻でした。

『開栓日誌』22巻	冬馬は小紅に好意を持っていて、翠は冬馬に好意を持っているという切ない三角関係が今回の見どころだと思います。最初は冬馬のことをあんなに嫌がっていた翠が、まさかここまで冬馬を追いかけるとは思いませんでした。小紅も結婚することが決まっていますので、冬馬と関係を持つてはいけなはずですからこの二人がどうなってしまうのかドキドキです。
『開栓日誌』22巻	男性と二人っきりでお酒を飲みに行って、結婚はしたくない・何か事件が起きて結婚がなくなってほしいなんて愚痴るなんてもう脈ありまくりじゃあないですか。とはいえ、そう簡単に開栓させてはくれない小紅です。酔っぱらっていたはずなのにちゃっかり逃げ出して。小紅さんすごい。ただ、冬馬もなかなかのもの。ついに家を探り当てられて、これからどうなっちゃうんでしょうね。
『開栓日誌』23巻	両親もいる自宅にて、自分の部屋にこもってこっそり。ドキドキが半端ありません。小紅と一緒にこっちもドキドキしちゃいました。それで結局最後までやっちゃって、冬馬の心臓が強靱すぎる。それにしても、部屋のドアが開いてるにもかかわらずやっちゃってますよね。ばれたって別にいい。むしろ気づかせたい。そう思ってるからこそ堂々としてたのでしょうか。
『開栓日誌』23巻	このエピソードは、冬馬と小紅の関係性がメインとなっているようですが、冬馬はあくまでも遊び相手として小紅の相手をしているような感じがしました。さらに二人の関係が親にバレてしまいそうになるドキドキのシチュエーションもあり、ここは最大の見どころではないかと思います。冬馬はそんな状況も楽しんでいて、なかなかぶっ飛んでいるかと再認識させられました。
『開栓日誌』24巻	莉奈と翠がつながっていて、動ける範囲内で活動をしているとどうしてもこんな感じで意外なところで実は知り合いだったのが出てきますよね。次々と女性の開栓をしている冬馬ですが、いつどこで転落につながらないとも限らない綱渡り状態です。
『開栓日誌』24巻	意味がわからないのが面白いので、ついつい買ってしまう(笑)そして、また気になるので買う連鎖にはまっていますー！ストーリーが面白いので次が気になってしまう。女性の描写が絶妙でついつい見惚れてしまうシーンもあり気になる作品の一つになった。まず絵がきれいです。ストーリーはやや強引なところもちろんですけど、1回1回ではなく話が続いていくのがおもしろいですね。どうなるんだろう？と思いながら楽しみにしています。
『開栓日誌』25巻	東京からやってきたイケメン支店長。東田京佑って、そのまま東京だし。ネーミングに笑ってしまいました。わかりやすくいい。ただのイケメンではなさそうです。綱渡り状態だった人間関係、彼によって思いっきり引掻き回されそうで期待できますね。イケメンだけど性格悪そう。親しめるキャラではなくいらだちも引き起こしそう。
『開栓日誌』25巻	今回から新しく登場した支店長の京佑ですが、まだ謎に包まれているからかわかりませんが、どこか怪しい雰囲気を感じます。冬馬もそんな彼をライバル視しているようで、緊張感が高まっていく様子にドキドキしました。新しい登場人物が増える度に人間関係が複雑に絡み合っていくのがこの作品の特徴なので、これから先がもっと楽しみになりました。
『開栓日誌』26巻	前話で新しく登場した支店長は今回でできませんでした。あの支店長との三角関係も早く進んでほしいですが、どうなるかワクワクしています。 もしかしたら冬馬が莉奈の友達のところに仕事に行っている間に、翠と支店長は急接近しているかも。そうすると冬馬の嫉妬もますますひどくなりそうです。
『開栓日誌』26巻	これまでの大人向けのシーンの中でも結構上位に来るくらいお気に入りのシーンでした。特に冬馬が足で触るシーン。あの描写はなかなかあるものがありますね。このまま先もしちゃうのか気になります！
『開栓日誌』27巻	翠を見る姿とか、開栓しているときの顔とか何を考えているのかまったくわかりません。というより何をしたいのかわからない状態です。そろそろ冬馬には突拍子もないことをしでかしてほしいです

	ね。
『開栓日誌』27巻	人見知りでちょっと変わった彼氏を持つ女の子ですが、非常に濃いシーンでした。なぜこんな関係になってしまったのか、机においている彼氏はなんなのかなど、気になるところも多いです。次の28巻はそろそろ物語が大きく動いてほしいです。

漫画全巻の部屋
by (株)グリュックス